

三まいのおふだ

(中四分)

劇団 オン・サンタ

むかしし：あったとき：

あるところに小さいお寺があつて　そこに和尚さんと小僧が住んでい
た

ある日のこと　和尚さんが小僧を呼んでいった：

小僧　小僧　お前これから山へ行って仏さんに供える花切ってきて
くれ」

「ほーい！」小僧はいい返事をして出かけていったんだが：この小僧
が怠けもんで：花を一本切ったら一休み：一本切ったら一休みしても

1

んで　三本切ったら日が暮れてしまった：日が暮れてなんにもみえなく
なったもんだから

「ありやあ：こりや大ごった：どうしよう　これじゃあお寺に戻れな
いが：」と小僧が困っている　と山の向こうにチャカン：チャカン：と明
かりが見えた：小僧は喜んで明かりのほうへ歩いていくと　そこは一軒
の家だった：小僧は戸をたたいた

「こんばんは：こんばんは：」するとガタガタガタ：戸があいて中か
ら出てきたのはしわくちやなばっさまだった：

「あっ：ばっさまあ：おれはこん下の寺の小僧だが　山へ花切りに来
て日が暮れてしまったすけ　なじょうも一晩泊めてくれ：」と小僧が頼
むと

2

劇団 オン・サンタ



ああ：おらんとこは食うもんも 寝る場所もないが まあ泊まれ：
とって ぼっさまは泊まらせてくれた

そうして その晩は一緒にねたんだが：夜中になって 小僧はなんだ
かくすぐったくて目が覚めた：みると 横に寝ていたはずのぼっさまが
起き上がって

小僧はうまそうだな：といいながら 小僧のしりをひび割れた手
でザランザランなでまわしてこんだは小僧の頭をペランペランなめはね
た：見るとぼっさまの顔は目が恐ろしくギョロツとして 口は耳まで裂
けた恐ろしげな鬼ばさになっていた：

山姥だあ：どうしよう：このままじゃ山姥に食われてしまう：」小
僧はどうしたらいいか一生懸命考えてこういった：



3

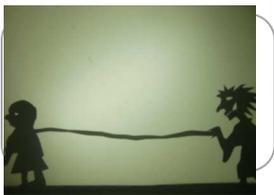


ぼっさま：おれ ションベンが出る 便所行かしてくれ」すると
なあに：ションベンなんて ねててしれ：」と行って行かせてくれ
ない：しかたないので小僧はまた考えて

ぼっさま：おれウンコが出る 便所行かしてくれ」というと山姥は
なあに：ウンコなんて ホレ オンの手の中にしれ：」と行って行
かせてくれない」そこで小僧は

いやだ いやだ ぼっさまの手の中になんかウンコしれない：もう
もれそうだー：」という と 山姥は

「しょうがねえなあ：それじゃあ便所行かしてやるが 逃げられねえ
ように腰に縄つけるからな」といって 小僧の腰に太くて長い縄を縛り
つけ片方をぎっちり握ったまま便所にやらしした 便所に入った小僧は：



4



便所の神様 便所の神様 なじょうも助けにくんなせえ…このまま
 じゃ 山姥に食われてしまう」とお願いをすると 便所の神様が現れた
 それならここに三枚のお札がある…これをやるから 困った時はお
 願いで投げる…」というので 小僧は腰の縄を解いて便所の柱に縛り
 つけ ちっちゃな窓から外へとさ…
 さて 便所の外で待っていた山姥だが 小僧がなかなか出てこないの
 で 縄をツンと引っ張っていった

小僧 小僧 まだか…」すると便所の神様が中から返事をした

まーだでーるところ…」しばらくして 山姥がまた縄をツーンと引
 っ張って

小僧 小僧 まだか…」



5



まーだでーる最中…」
 うーん…まだか ずいぶんと長いな」それからしばらく待ってから
 また縄をツンツン山姥がまたいった

小僧 小僧 まだか…」

まーだでーる盛り…」これをきいて山姥は怒って

いつまで長グソしてる 出てこーい」と思いつきり綱をキツーンと
 引っ張ったら 便所の柱がスポーンと抜けてガラピシガラピシドシーン
 と山姥の頭にぶつかった…

アタタタタ…」山姥は柱を見て 急いで便所の戸を開けると中は空
 っぽだった

小僧…っ逃げたな…」山姥だもん足は速い…ビューッと追いかけて

6



いくと 遠くのほうに背中をまるまっこうして逃げていく小僧の姿が見えた： 小僧 まてーっ：」山姥はたちまち小僧の肩を掴みそうになった 小僧はお札を一枚後ろへグリーンと投げてこういった

後ろは大水：」すると小僧と山姥の間にゴウゴウと音を立てて流れる川ができた： 山姥は：

なんだ こんな川：」といって 川に口をつけるとガブガブと水を飲み込んでいった：その間に小僧はどんどん逃げていったが 山姥も水を飲み干すとまた

待てーっ 小僧待てーっ」またビューンと追いかけていき すぐにまた追いつきそうになった：そこで小僧は二枚目のお札を後ろへグリーンと投げて：

7



後ろは針の山ーっ」というと小僧と山姥の間にボワーンと大きな針の山が現れた：山にはドキドキするほど尖った針がビッシリ植わっていたが山姥は：

なんだ こんな山：」といって 四つんばいになるとガッチガッチと手を血だらけにして針の山を登りにかかった：その間に小僧はどんどん逃げていったが 山姥は針の山を越えるとまた

待てーっ 小僧待てーっ」と追いかけていき すぐにまた追いつきそうになった：そこで小僧は三枚目のお札を後ろへグリーンと投げて

後ろは大火事：」というのと小僧と山姥の間はボウボウとあたり一面火の海になった：山姥は

なんだこんな火事：」といって火の中に飛び込むと あっちこぎ：

8





こっちこぎして進んでいった：その間に小僧は逃げて逃げて走って走って走って：ようやくお寺についた：ところが夜中なんでお寺の門がピタッとしまった中へ入れない：小僧は門をたたいて叫んだ

和尚さまーっ 小僧だーっ 早く門をあけてくんなせえ：「返事がない：すると向こうのほうに山姥が髪を振り乱して 小僧のほうへ向かってくるのが小さく見えたもんで小僧はあわてて：

和尚さまーっ 和尚さまーっ 早く門をあけてくんなせえ 山姥に追っかけられてるー：」するとなかから声がした

ほーい 今ふんどし締めてえ：」

和尚さまーっ ふんどしなんていいから早く開けてー：」

ほい 今着物きてえ：」

9

和尚さまーっ 着物なんていいからあ：山姥がもうそこまできてい

ほい 今帯閉めてえ：」

帯なんかいいからあ：あーっ 山姥がすぐ後ろにきたあ

ほい 今下駄はいてえ：」

和尚さまーっ もうだめだあ：」

ほい お待ちどうさま」 ギーイイイ 和尚さんが門を開けた 小

僧が転がるように門の中へ飛び込むと同時に山姥がやってきた

やい 和尚 今小僧がここにきただろう 出せ：」

小僧？：知らんなあ：」

なにお：たった今小僧がこの寺に入るのを見たがね やい 和尚



うそをつくと まずお前から頭に味噌つけて食ってやるぞ」

ほはは：わしを食うのか わしなんか食ってもまずいぞ それより

どうだ山姥：これは相談だが わしとお前と術較べをしてお前が勝った
らわしを食うというのはどうだ？」

面白い：おれは化けるのは得意だ なんにでも化けられるぞ：」

そうか それなら大きいものに化けられるか？大入道になってみる」

おお いいとも 見てろ」山姥はそういうと唱えごとをした

だかずくたかずくたかずくよ：」すると山姥の体はムクムクムク：

と大きくなってお寺の門より高く：ムクムクムク：木よりも高くムクム
クムクと大きな大きな大入道になった

どうだーっ和尚：」と山姥がいうと 和尚はいった

11

すごいなー：でも山姥よ：お前は大きいものにはなれても小さいも
のにはなれないだろう？」

なんだとーっ：小さいもんにだってなれるぞ」

そうか そんなら豆粒になってみるや なれるかな？：」

なれるぞーっ みてろよ：」そして山姥はまたとなえごとをした

ひくづくひくづくひくづくよ：」すると山姥の体は見る見るうちに

ちぢまっていくと ピューーン ポチン：小さな豆粒になって地面に転

がった：そこで和尚さんは 豆粒を拾いあげると：手のひらにのせて

クルクル転がすと 口の中へパツクン ガリガリのゴツクン：

ほい ごちそうさま：」丸ごと食べてしまいましたとき：

いっちゃんぽーんさけた



《参考資料》

『雪の夜に語りつぐ』笠原政雄・語り 中村とも子・編 福音館書店
『さんまいのおふだ』水澤謙一・再話 梶山俊夫・画 福音館書店
『左近司マサ江のとなん昔があったとお』つくしんぼ企画
おやじの思い出